

元総社蒼海遺跡群(135)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2020.3

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群(135)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 2 0 . 3

前橋市教育委員会



元總社舊海跡群（135）遠景　（南から）



W-1号溝路断面　（南西から）



W-2号溝跡断面（東から）



W-3号溝跡断面（東から）

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる群馬県の県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始め、市内のいたる所にその息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、壬山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王廃寺、國府、國分僧寺、國分尼寺など上野国の中核をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた肥橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地となり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元總社蒼海遺跡群（135）は古代上野国の中核地域の調査であり、上野國府推定地域にも近接することから、調査成果に多くの注目を集めています。今回の調査では、國府そのものに関連する遺構の検出、確認はかないませんでしたが、國府衰退後、中世のこの地に栄えた蒼海城の堀跡等が検出されました。蒼海城は、県内最古級の城と考えられており、その縄張りは近年の発掘調査に伴って、徐々にその姿を見せていますが、全貌は未だ確認されていません。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められることができました。また、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

令和2年3月

前橋市教育委員会
教育長 塩崎政江

例　　言

1 本報告書は前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（135）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2 発掘調査の要項は次の通りである。

遺跡名	元総社蒼海遺跡群（135）
調査場所	前橋市元総社町 2149-1, 2149-2, 2149-5, 2149-7
遺跡コード	1 A 244
監理指導	並木史一（前橋市教育委員会）
発掘・整理担当者	山田誠司（技研コンサル株式会社）
発掘調査期間	令和元年9月5日～令和元年9月24日
整理・報告書作成期間	令和元年9月25日～令和2年3月10日
3 本書の編集は山田が行い、原稿執筆はIを並木、他を山田が担当した。	
5 発掘調査および整理作業参加者は次の通りである。	
大川明子　茂木佑輔（技研コンサル株式会社）	
新井　實　上沢公一　宇賀神光　小田切幹緒　河本ちさと　北爪二郎　桑原　清　曾根良美　高橋一巳	
中嶋知恵子　星野　博　細野竹美　吉浦英和	
6 本書における図面、写真、遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。	
7 下記の機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。	
山下工業株式会社	

凡　　例

1 押図中に使用した北は座標北である。

2 押図に国土地理院発行1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『前橋』、前橋市発行1/2,500都市計画図を使用した。

3 遺構名称は、溝跡：W、井戸：I、ピット：Pである。

4 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次の通りである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構　溝跡・井戸・ピット・・・1/60

全体図・・・1/150

遺物　土器・石製品・・・1/3, 1/4　　古銭・・・1/1

5 本文および表中の計測値については（ ）は現存値を、〔 〕は復元値を表す。

6 遺構図、遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

遺物　須恵器（還元焰）：■　　施釉：■

7 主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-B（浅間B軽石：1108）、Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：6世紀中葉）、

Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：6世紀初頭）、As-C（浅間C軽石：3世紀後葉～4世紀前半）

目 次

卷頭図版1	
卷頭図版2	
はじめに	
例言・凡例	
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	2
III 調査の方針と経過	
1 調査範囲と基本方針	8
2 調査経過	8
IV 基本層序	8
V 遺構と遺物	
1 溝跡	9
2 井戸跡	9
3 ピット	10
VI まとめ	19

挿図目次

Fig. 1 遺跡の位置	1
Fig. 2 前橋の地形	2
Fig. 3 周辺遺跡図	3
Fig. 4 周辺調査地点とグリッド設定図	7
Fig. 5 基本層序	8
Fig. 6 元能社蒼海遺跡群（135）全体図	11
Fig. 7 W-1号溝跡	12
Fig. 8 W-2・3号溝跡、I-5号井戸跡（1）	13
Fig. 9 W-2・3号溝跡、I-5号井戸跡（2）	14
Fig. 10 I-1～4・6号井戸跡、ピット	15
Fig. 11 出土遺物（1）	16
Fig. 12 出土遺物（2）	17
Fig. 13 出土遺物（3）	18
Fig. 14 元能社蒼海遺跡群（135）周辺蒼海城想定図	20

表目次

Tab.1	周辺遺跡一覧表	4
Tab.2	ピット計測表	10
Tab.3	出土遺物観察表	18

写真図版目次

PL. 1	調査区遠景（南から、右上が蒼海城本丸）
PL. 2	調査区全景（上が北）、調査区全景（南から）
PL. 3	W-1号溝跡全景（南から）、W-1号溝跡近景（北から）
PL. 4	W-2・3号溝跡全景（東から）、W-2号溝跡近景（東から）
PL. 5	W-3号溝跡全景（東から）、I-1号井戸跡全景（東から）、I-2号井戸跡全景（北から）、I-3号井戸跡全景（南から）、I-4号井戸跡全景（南から）
PL. 6	I-5号井戸跡全景（東から）、I-6号井戸跡全景（北から）、P-1～10号ピット全景（南から）、P-1号ピット全景（南から）、P-2・3号ピット全景（南から）
PL. 7	P-4号ピット全景（南から）、P-5・6・7号ピット全景（東から）、P-8・9号ピット全景（南から）、P-10号ピット全景（東から）、P-11号ピット全景（南から）、P-12号ピット全景（南から）、P-13号ピット全景（南から）、P-14号ピット全景（南から）
PL. 8	P-15号ピット全景（南から）、P-16号ピット全景（南から）、P-17号ピット全景（南から）、P-18号ピット全景（南から）、P-19号ピット全景（南から）、P-20号ピット全景（南から）、P-21号ピット全景（南から）、基本層序（南から）
PL. 9	出土遺物
PL.10	出土遺物

引用・参考文献

- 中世土器研究会編 1995 「概説 中世の土器・陶磁器」 真陽社
- 中村岳彦 2018 「『推定上野国府』周辺の古代景観－元總社蒼海遺跡群の溝と道－」『群馬文化』第332号
群馬県地域文化研究協議会
- 山崎 一 1978 『群馬県古城塁址の研究 上巻』 群馬県文化事業振興会
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009 『元總社蒼海遺跡群（21）』
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009 『元總社蒼海遺跡群（23）』
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009 『元總社蒼海遺跡群（29）』
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2010 『元總社蒼海遺跡群（31）』
- 前橋市教育委員会 2011 『元總社蒼海遺跡群（36）』
- 前橋市教育委員会 2013 『元總社蒼海遺跡群（44）、（45）』
- 前橋市教育委員会 2013 『元總社蒼海遺跡群（47）』
- 前橋市教育委員会 2014 『元總社蒼海遺跡群（57）、（58）、（59）』
- 前橋市教育委員会 2017 『元總社蒼海遺跡群（124）』
- 前橋市教育委員会 2019 『元總社蒼海遺跡群（130）』

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴い実施され、21年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

令和元年5月7日付で前橋市長 山本 龍（区画整理課）（以下「前橋市」という。）より試掘確認調査依頼が提出された。これを受け、前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）で同年5月30日に試掘確認調査を実施した結果、遺構が検出され、工事計画から遺構の現状保存は困難であると判断したため、記録保存を目的とした発掘調査実施に向けて協議を進めた。

令和元年6月21日付で前橋市より、埋蔵文化財発掘調査・整理業務に係る依頼が、市教委に提出された。市教委では既に他の発掘調査を実施中のため、市教委直営による調査実施が困難であると判断し、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意に至った。業務実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理・指導のもと発掘調査を実施することとなった。同年8月30日付で前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で業務委託契約が締結され発掘調査に着手した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（135）」（遺跡コード：1A244）の「元総社蒼海」は土地地区画整理事業名を採用し、「（135）」は過年度に実施した発掘調査と区別するために付したものである。

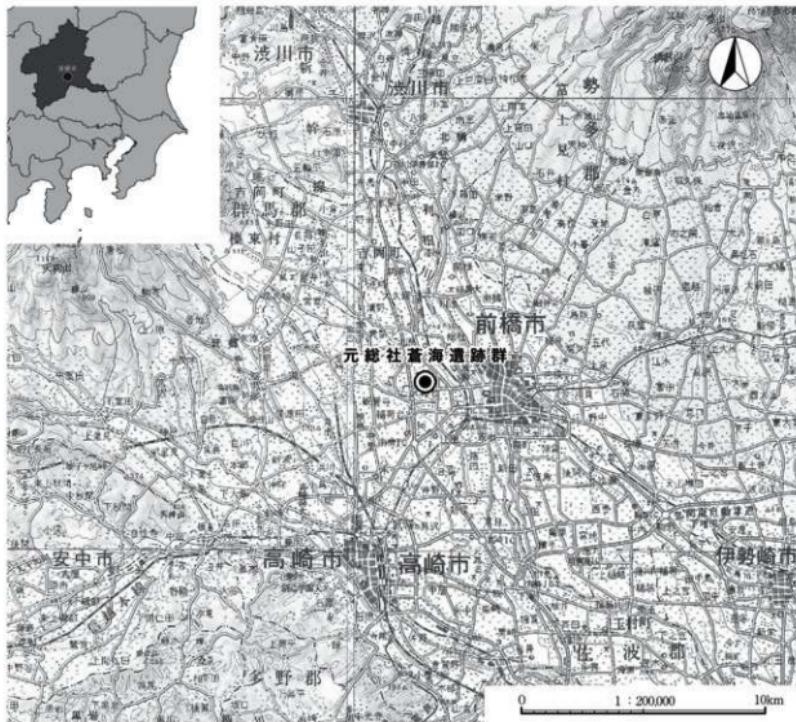


Fig.1 遺跡の位置

II 遺跡の位置と環境

地理的環境 (Fig. 1) 元総社蒼海遺跡群 (135) は、前橋市街地から利根川を隔て西へ約 3.6km の地点、前橋市元総社町地内に所在する。遺跡地の西側には関越自動車道が南北に、南側には国道 17 号、主要地方道の県道足門・前橋線、前橋・安中・富岡線が東西に、また東側には市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。

遺跡は、榛名山山麓の相馬ヶ原扇状地端部と前橋台地との移行地帯に立地する。遺跡周辺には、相馬ヶ原扇状地の伏流水を水源とする牛池川、染谷川が流れている。これらの河川の開析作用によって細長い微高地と低地が多く形成されており、その比高差は 3~5m を測る。遺跡が立地する周辺は主に畑地として利用されていたが、前橋市中心部から続く市街地の西端にあたり、近年では元総社蒼海土地区画整理事業の進展によって宅地や商業施設が立ち並び、市街地化が拡大している。

歴史的環境 (Fig. 3・Tab. 1) 本遺跡が所在する元総社地域は、上野国府推定地や上野国分寺・国分尼寺を中心に連続と遺跡が広がる地域であり、関越自動車道建設や区画整理事業などに伴う発掘調査が行われ、多くの遺構が確認されている。本遺跡周辺地域での時代毎の遺跡の概要は以下の通りである。

(1) 繩文時代 八幡川右岸の微高地上に産業道路東 [15]・産業道路西 [16]、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域 [22]・元総社小見三遺跡 [59]・元総社蒼海遺跡群 (24) などが挙げられ、堅穴住居跡が確認されている。本遺跡でも縄文時代前期から中期にかけての遺構を確認している。

(2) 弥生時代 日高遺跡 [18]・[19]・上野国分僧寺尼寺中間地域 [22]・正觀寺遺跡 [21] などがあるが、その分布は散在的である。この内、日高遺跡では浅間 C 軽石下の水田跡が確認されており、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて継続して営まれた水田と捉えられている。

(3) 古墳時代 本遺跡周辺は県内でも有数の古墳密集地域であり、それを代表するものとして総社古墳群が挙げられる。古墳時代後期・終末期に亘り、王山古墳 [7]・総社二子山古墳 [12]・愛宕山古墳 [10]・宝塔山古墳 [13]・蛇穴山古墳 [8] などの首長墓が多数築造された。また、この時期には王山廃寺 [4] が建立され、総社古墳群を含め、政治的中枢地域となる。

王山廃寺は昭和 3 年に日枝神社境内が「王山塔址」として国指定史跡となり、その後昭和 49~56 年にかけて 7 次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出および「放光寺」範囲の平瓦出土により王山廃寺が「山ノ上碑」「上野国交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されるようになった。平成 9~11 年の調査でも土坑から大量の塑像が出土し、平成 18~19 年度調査では北・東・西面、平成 20 年度調査では南面の回廊を検出している。さらに平成 21 年度調査では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が、平成 22 年度調査では北西隅の回廊と接するように「基壇建物跡」と「北方建物群」が確認されている。なお、この寺の塔心礎や石製鷲尾、根巻石等の石造物群は宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術によるものと考えられており、仏教文化と古墳文化とが併存しながら機能していた様子が窺える。



Fig. 2 前橋の地形

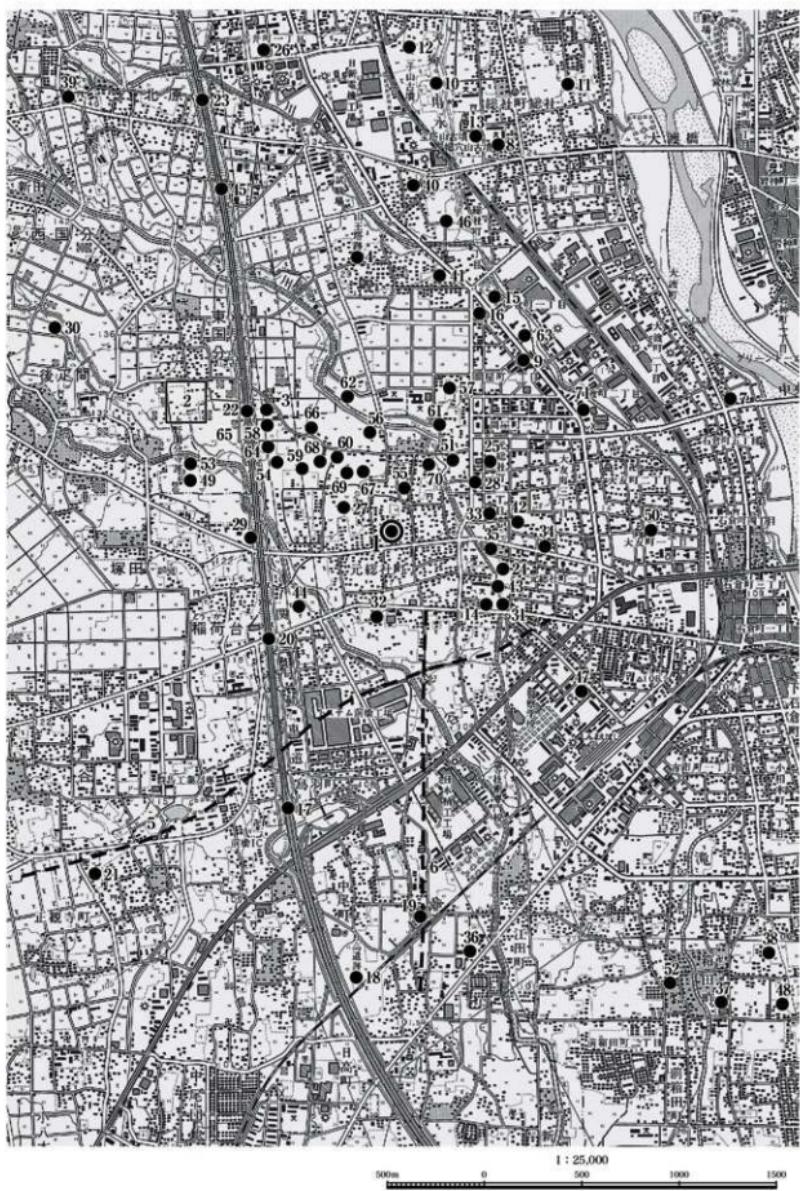


Fig. 3 周辺遺跡図

この時代の集落は牛池川と染谷川に挟まれた台地上に展開しているが、前期～中期の集落は散見される程度で、後期からの集落増加が看取できる。生産域としては、牛池川左岸一帯に広がる低地平野において、元総社明神遺跡、元総社北川遺跡、総社閑泉明神北IV・V遺跡などで水田跡が確認されている。

(4) 奈良・平安時代 奈良時代には上野国府が造営され、上野国分寺〔2〕・国分尼寺〔3〕の建立に示されるように、本遺跡周辺は古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

上野国府は本遺跡付近の区域に約900m四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡〔14〕では県下最大級の掘立柱建物跡が検出され、元総社蒼海遺跡群（99）、上野国府等範囲内容確認調査28・33・34トレントレーナーでは掘込地業を持つ建物跡が、元総社蒼海遺跡群（95）では方形の柱穴掘り方をもつ大型掘立柱建物跡が確認されている。元総社寺田遺跡〔43〕では「國府」・「曹司」・「國」・「邑厨」などの墨書き土器や人形が出土している。元総社明神遺跡〔24〕では南北方向の溝跡、閑泉橈遺跡〔25〕や元総社蒼海遺跡群（7）・（9）・（10）では東西方向の溝跡が確認され、国府城の外郭線の想定が為されている。また、周辺遺跡からは円面鏡や綠釉陶器、巡方（腰帶具）なども出土しており、国府を考える上で貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的な発掘調査が進められるようになった。昭和55年以降には本格的な調査が始まり、主要伽藍の礎石・築垣・堀等が確認されている。また、平成24年度から28年度にかけての第2期発掘調査において、これまでの金堂が講堂であったことが判明する等、伽藍配置の変更が行われている。国分尼寺は昭和44・45年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成12年度に前橋市埋蔵文化財発掘調査團により南辺での寺域確認調査が行われた。調査の結果、南東・南西隅の築垣と、それに平行する溝跡や道路状遺構等が確認されている。また、高崎市教育委員会による平成28年度の調査で講堂跡が尼坊跡であったことが判明し、平成29年度の調査では回廊跡の一部が確認されている。関連遺跡としては鳥羽遺跡〔20〕で神社遺構と工房跡が確認され、上野国分僧寺・尼寺中間地域〔22〕では大規模な集落・掘立柱建物跡群が検出されている。また、近郊にはN・64°・E方向に東山道（国府ルート）が、日高遺跡〔19〕では幅約4.5mの推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。

当該期の一般的な集落は、古墳時代と同様に牛池川と染谷川に挟まれた台地上に立地するが、国府推定域の中心部での分布は少なく、国府城と居住域の区分けが看取できる。近年の調査による元総社蒼海遺跡群（40）で8世紀後半の住居跡内の一角に鍛冶遺構が検出されている。元総社蒼海遺跡群（41）では9世紀後半の鍛冶工房が検出され、同遺跡からは金の付着した灰釉陶器や奈良三彩といった貴重な遺物が出土している。また、元総社蒼海遺跡群（64）では8世紀前半には廃絶されたと考えられる製鉄炉跡（箱型炉）が1基、元総社稻葉遺跡〔47〕では10世紀に想定される製鉄炉跡（小型自立炉）が2基確認されている。

(5) 中世 室町時代になると上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地としこの地を治めた。元総社蒼海遺跡群では蒼海城の堀跡が多く検出されており、12～15世紀の青白磁梅瓶、青磁酒会壺、袴腰香炉などの貿易陶磁が多数出土している。天正年間以降は諱謫・秋元氏が蒼海城に入り当地の領主となるが、慶長6年（1601年）に秋元長朝が總社城に移ると同時に蒼海城は廢城となった。また、当該期の周辺遺跡では大渡道場遺跡〔71〕の貨幣理納遺構から572枚におよぶ銭貨が撫縄を通した「縦」の状態で六縦出土している。

Tab. 1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	元総社蒼海遺跡群（135）	11	曳見山古墳	21	正則今遺跡Ⅰ号	31	今井遺跡Ⅳ
2	上野国分寺跡	12	能作二山古墳	22	上野国分寺跡・尼寺中間地域	32	大河原遺跡・尼遺跡
3	上野国分尼寺跡	13	安坂山古墳	23	北足遺跡	33	別動遺跡・尼遺跡
4	山川遺跡	14	火薙村小学校前遺跡	24	村松明神遺跡Ⅰ～Ⅲ番	34	早瀬遺跡
5	東山遺跡（確定）	15	東山遺跡・根島遺跡	25	閑泉遺跡	35	佐久間遺跡
6	日高遺跡（確定）	16	東山遺跡・西山遺跡	26	丸木遺跡	36	伊川遺跡
7	山古墳	17	中根遺跡	27	笠井遺跡	37	村前遺跡
8	船六山古墳	18	日高遺跡	28	閑泉山遺跡	38	五川川遺跡
9	福島山古墳	19	日高遺跡	29	保田山遺跡	39	照野分赤跡・Ⅱ・茎遺跡
10	愛宕山古墳	20	島山遺跡	30	後矢遺跡Ⅰ～Ⅲ	40	村東遺跡
							41 佐幸今遺跡Ⅳ遺跡・Ⅴ遺跡
							42 早瀬遺跡
							43 元総社今遺跡Ⅰ～Ⅲ
							44 佐久間遺跡・尼遺跡
							45 国分寺跡・尼遺跡
							46 大河原遺跡Ⅰ～Ⅲ
							47 上野日松遺跡
							48 五川山遺跡
							49 上野今山遺跡
							50 丸久地山遺跡

番号	道跡名	番号	道跡名	番号	道跡名	番号	道跡名
56	松井村-花内-豊前-巨勢	56	松井村-花内-豊前-巨勢	66	松井村-花内-豊前-巨勢	72	久米站跡道跡
57	松井村-西豊前	57	松井村-中豊前-巨勢	67	松井村-中豊前-巨勢	73	久米站跡道跡
58	松井村-中豊前-巨勢	58	松井村-内里-豊前	68	松井村-内里-豊前	74	久米站跡道跡
59	元町村-小見瀬	59	元町村-内里-豊前	69	元町村-小見瀬-豊前	75	久米站跡道跡
60	元町村-内里-豊前	60	元町村-内里-豊前	70	元町村-明見-豊前		

番号	遺跡名	調査年度	時代・主な発見・出土物
1	柏谷奈良町北之原遺跡	2002	绳文・古墳・平安：巨石柱・△火照舟
2	柏谷奈良町北之原遺跡	2002～2004	古墳・木造建物・埴輪
3	柏谷奈良町北之原遺跡	2004	古墳・木造建物・埴輪・平安：瓦器・埴輪
4	円山遺跡	1983	古墳・瓦器・埴輪・平安：大刀
5	圓山遺跡	1985	古墳・瓦器・△執事鏡
6	元船立北川遺跡	2002～04	绳文～古墳・田園遺構、瓦器・埴輪、木構造・船上式削面器・刮削器、平安：瓦器・圆山・圆立柱埴輪・瓦器、中世以降・圆立柱埴輪・瓦器
7	元船立北川遺跡	2002～04	古墳・火葬墓・埴輪・瓦器・瓦器上巻（瓦器）、从属・猪塚・扇形土器
8	元船立北川遺跡	2004	古墳・木造建物・瓦器・埴輪・瓦器上巻（瓦器）、从属・猪塚・扇形土器
9	元船立中学校遺跡	2010	西周・古墳・瓦器・埴輪・瓦器・瓦器上巻・平安：瓦器・圆立柱埴輪・△城主土器（削・削削・砾砂・其鉢形土器・三足器・瓦器上巻・瓦器上巻・瓦器上巻）

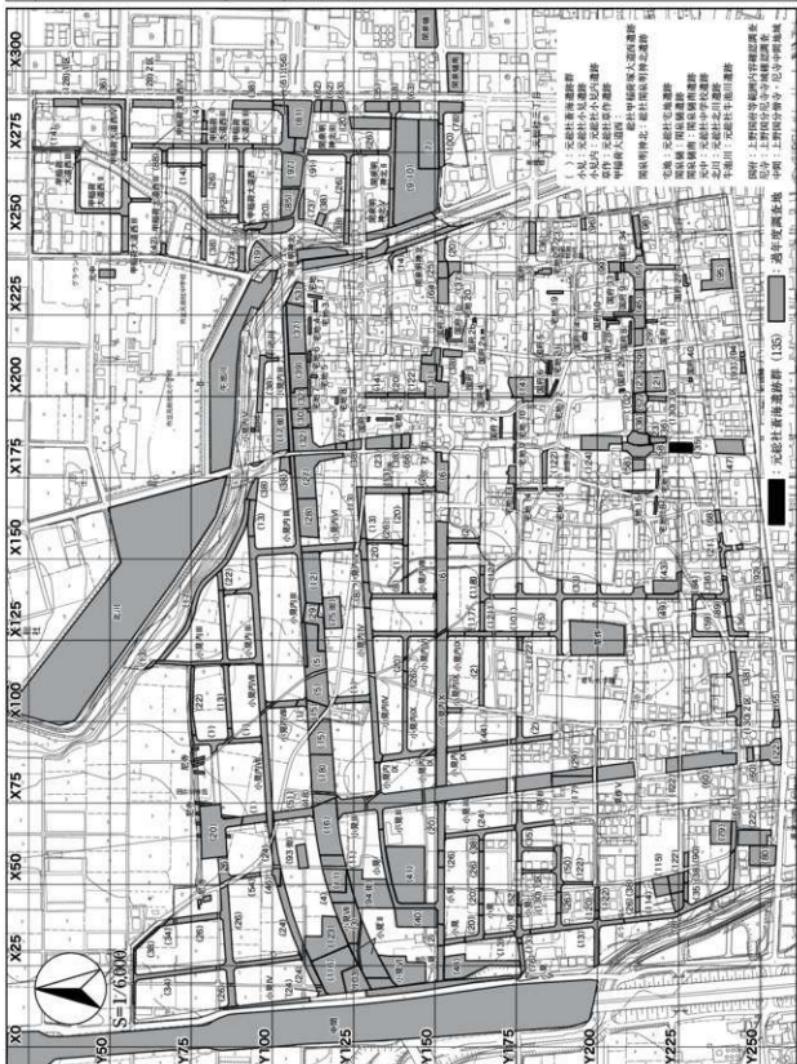


Fig. 4 周辺調査地点とグリッド設定図

III 調査の方針と経過

1 調査範囲と基本方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業における道路予定地であり、調査面積は304m²である。グリッド座標については国家座標（日本測地系第IX系）X = 440000.000、Y = - 72200.000を基点とする4mピッチのものを使用し、経線をX、緯線をYとして北西隅を基点に番付して呼称とした。公共座標は次のとおりである。

測点	日本測地系（第IX系）	世界測地系（第IX系 测地成果2011）
X 183、Y 222	X = 43112.000 m、Y = - 71468.000 m	X = 43466.913 m、Y = - 71759.764 m

発掘調査は遺構確認面まで重機（0.45バックホー）にて表土掘削を行い、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精查、測量・写真撮影の手順で実施した。遺構調査については土層の堆積状況を確認するため、土層ベルトを適宜設定した。なお、出土遺物に関しては、床面直上や遺構に伴うと判断したものはNo遺物とし、他の覆土中の破片等については一括遺物として取り上げた。

遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行い、断面図については一部オルソーフォトに変換して編集を行った。記録写真は35mmモノクロ・リバーサル、デジタルカメラの3種類を用いて撮影し、調査区の全景についてはドローンでの撮影を実施した。

整理作業での出土遺物の計測は、キーエンス社製3Dスキャナー（VL-300）による機械計測を行った。誤差1mmの1/1,000という高精度な全点取得が可能で、2次元図化以外の用途にも発展性が見込めるものである。

2 調査経過

令和元年9月4日に調査区設定および器材準備を実施した。5日に重機・プレハブ・器材の搬入を行い、重機による表土掘削を開始した。6日から表土掘削と併行して、遺構確認および遺構掘下げを行った。19日にドローンによる全景撮影を実施し、同日に前橋市教育委員会による検査を受けた。20・21日に埋め戻し作業を行い、24日に撤収作業を完了し、現地での発掘調査を終了した。9月25日より整理作業および報告書作成を実施した。

IV 基本層序

調査区北西隅で基本層序の確認を行った。表土層（I層）および造成土層（II層）が30～40cm堆積しており、その直下では元社砂層漸移層（III層）が部分的に堆積するが、調査区中央から南側にかけては元社砂層面（IV層）が広がり、上部は削平を受けていると考えられる。

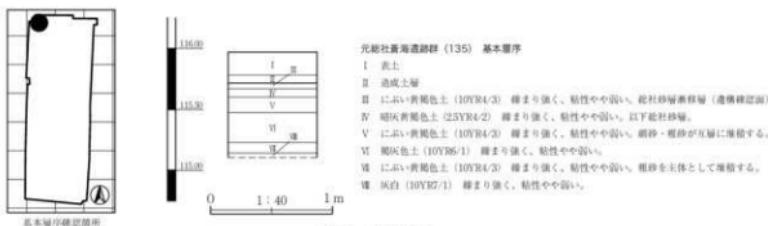


Fig.5 基本層序

V 遺構と遺物

1 溝跡

W-1号溝跡 (Fig. 7・11, PL. 2)

位置 X 184～185, Y 222～227 主軸方向 N-2°-E 規模 長さ (20.41) m、上幅 (3.43) m、下幅 (1.23) m、深さ 153 m。 形状等 北から南に走行し、検出範囲での断面形状は台形状を呈するが、調査区東端では一段低くなり、さらに東へ向かって下がるものと考えられる。覆土中には若干の As-B 軽石が混入する。重複 W-2・3、I-1、P-1～10 と重複し、新旧関係は W-2・3 → 本遺構 → I-1 であり、10基のビットは位置関係から横列痕と考えられ、本遺構と同時に併存していたものと考えられる。出土遺物 覆土中より須恵器、土師器、陶磁器類、石製品が出土しており、かわらけ (1)、土鍋 (2) を図示。時期 規模・形状から蒼海城の堀と考えられ、出土遺物や既往の発掘調査の成果等から 15世紀後半と想定される。備考 既往の調査である元徳社蒼海遺跡群 (23)・(47)・(58)・(105)・(124)において検出された、蒼海城本丸西側を南北に走行する堀と同一の遺構である。

W-2号溝跡 (Fig. 8・9・11, PL. 2)

位置 X 182～185, Y 227～228 主軸方向 N-89°-E 規模 長さ (873) m、上幅 (5.23) m、下幅 (2.48) m、深さ 160 m。 形状等 西から東に走行し、検出範囲での断面形状は台形状を呈するが、南半分が調査区外となるため、詳細は不明である。断面の観察から、大よそ 3 時期に細分できる。重複 W-1、I-5・6 と重複し、新旧関係は本遺構 → W-1、I-5・6 である。出土遺物 覆土中より須恵器、土師器、陶磁器類、石製品が出土しており、かわらけ (1) を図示。時期 規模・形状から蒼海城の堀と考えられ、出土遺物や既往の発掘調査の成果等から 15世紀後半と想定される。

W-3号溝跡 (Fig. 8・9・11, PL. 3)

位置 X 182～185, Y 226～227 主軸方向 N-89°-E 規模 長さ (894) m、上幅 3.55 m、下幅 1.76 m、深さ 1.69 m。 形状等 西から東に走行し、断面は台形状を呈する。覆土中には土壘を切り崩して埋め戻されたと思われる土層の堆積が認められ、非常に縮りが強い。重複 W-1、I-6 と重複し、新旧関係は本遺構 → W-1、I-6 である。出土遺物 覆土中より須恵器、土師器、陶磁器、かわらけ等が出土しており、かわらけ (1～3)、羽口 (4) を図示。時期 規模・形状から蒼海城の堀と考えられ、出土遺物や既往の発掘調査の成果等から 15世紀後半と想定される。

2 井戸跡

I-1号井戸跡 (Fig. 10・11, PL. 3)

位置 X 184・185, Y 223 規模 長軸 1.09 m、短軸 1.08 m、深さ (1.56) m。 形状等 平面形状は円形を呈する。重複 W-1 と重複し、新旧関係は W-1 → 本遺構である。出土遺物 欠損面に擦痕が見られる平瓦 (1) 1点を図示。砾石に転用したと考えられる。時期 出土遺物・重複関係から近世の遺構と思われる。

I-2号井戸跡 (Fig. 10～12, PL. 3)

位置 X 184, Y 223 規模 長軸 1.69 m、短軸 1.67 m、深さ (1.13) m。 形状等 平面形状は円形を呈する。重複 なし。出土遺物 土師器、かわらけ、石製品等が出土している。かわらけ (1～6)、土鍋 (7)、石鉢 (8)、石臼 (9・10)、石塔の台座と思われる加工痕のある安山岩 (11) を図示。時期 出土遺物から中・近世の遺構と思われる。

I-3号井戸跡 (Fig. 10・12, PL. 3)

位置 X 184, Y 224 規模 長軸 0.78 m、短軸 0.75 m、深さ (0.93) m。 形状等 平面形状は円形を呈する。

重複 なし。 出土遺物 土師器、かわらけ、瀬戸・美濃を含む陶磁器片等が出土している。永楽通寶（1）を図示。 時期 出土遺物から中・近世の遺構と思われる。

I-4号井戸跡 (Fig.10・12・14, PL. 3)

位置 X 183, Y 222 規模 長軸 (1.38) m、短軸 1.10 m、深さ (1.31) m。 形状等 平面形状は不正形な楕円形を呈する。 重複 なし。 出土遺物 焙烙（1）、土鍋（2）、板碑（3・4）、宝筐印塔（5）、五輪塔火輪（6）を図示。 時期 出土遺物から中・近世の遺構と思われる。

I-5号井戸跡 (Fig. 8・9, PL. 4)

位置 X 183, Y 227 規模 長軸 0.89 m、短軸 0.87 m、深さ (0.75) m。 形状等 平面形状は円形を呈する。 重複 W-2と重複し、本遺構が新しい。 出土遺物 須恵器、土師器が出土している。 時期 重複関係から近世の遺構と思われる。

I-6号井戸跡 (Fig.10, PL. 4)

位置 X 183, Y 227 規模 長軸 0.89 m、短軸 0.77 m、深さ (1.26) m。 形状等 平面形状は不正形な楕円形を呈する。 重複 W-2・3と重複し、本遺構が新しい。 出土遺物 なし。 時期 重複関係から近世の遺構と思われる。

3 ピット (Fig.10, Tab. 2, PL. 4~6)

本調査区ではピット 21 基を確認している。P-1 ~ 10 号ピットについては W-1 号溝跡の上端際にあり、西側の曲輪に開く横列であった可能性が考えられる。

各計測値については「Tab. 2 ピット計測表」を参照のこと。

Tab. 2 ピット計測表

遺構名	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	重複 (古→新)	出土遺物	備考
P-1	X 184, Y 224	(0.32)	0.32	0.20	楕丸長方形			西側の曲輪に伴う横列か
P-2	X 184, Y 225	0.32	0.20	0.14	楕円形	P-3 → P-2		西側の曲輪に伴う横列か
P-3	X 184, Y 225	0.32	(0.18)	0.12	楕円形	P-3 → P-2		西側の曲輪に伴う横列か
P-4	X 184, Y 225	0.45	0.31	0.31	楕円形			西側の曲輪に伴う横列か
P-5	X 184, Y 225	0.36	0.35	0.20	円形			西側の曲輪に伴う横列か
P-6	X 184, Y 225	(0.37)	0.23	0.05	楕円形	P-6 → P-5		西側の曲輪に伴う横列か
P-7	X 184, Y 225	0.39	0.30	0.21	不整円形	P-6 → P-5		西側の曲輪に伴う横列か
P-8	X 184, Y 226	0.34	0.21	0.14	楕円形			西側の曲輪に伴う横列か
P-9	X 184, Y 226	0.29	0.27	0.26	不整形			西側の曲輪に伴う横列か
P-10	X 184, Y 226	0.32	0.29	0.30	不整形			西側の曲輪に伴う横列か
P-11	X 183, Y 223	0.28	0.25	0.34	円形		土師器	
P-12	X 183, Y 223	0.23	0.21	0.25	円形			
P-13	X 183, Y 223	0.18	0.17	0.18	方形			
P-14	X 183, Y 223	0.24	0.19	0.10	楕円形			
P-15	X 183, Y 223	0.24	0.19	0.10	楕円形			
P-16	X 183, Y 224	0.27	0.21	0.34	楕丸長方形			
P-17	X 183, Y 224	0.33	0.23	0.24	長方形			
P-18	X 183, Y 224	0.34	0.28	0.36	楕円形			
P-19	X 183, Y 224	0.23	0.22	0.07	方形			
P-20	X 183, Y 225	0.26	0.25	0.28	方形			
P-21	X 184, Y 223	0.17	0.16	0.16	方形			

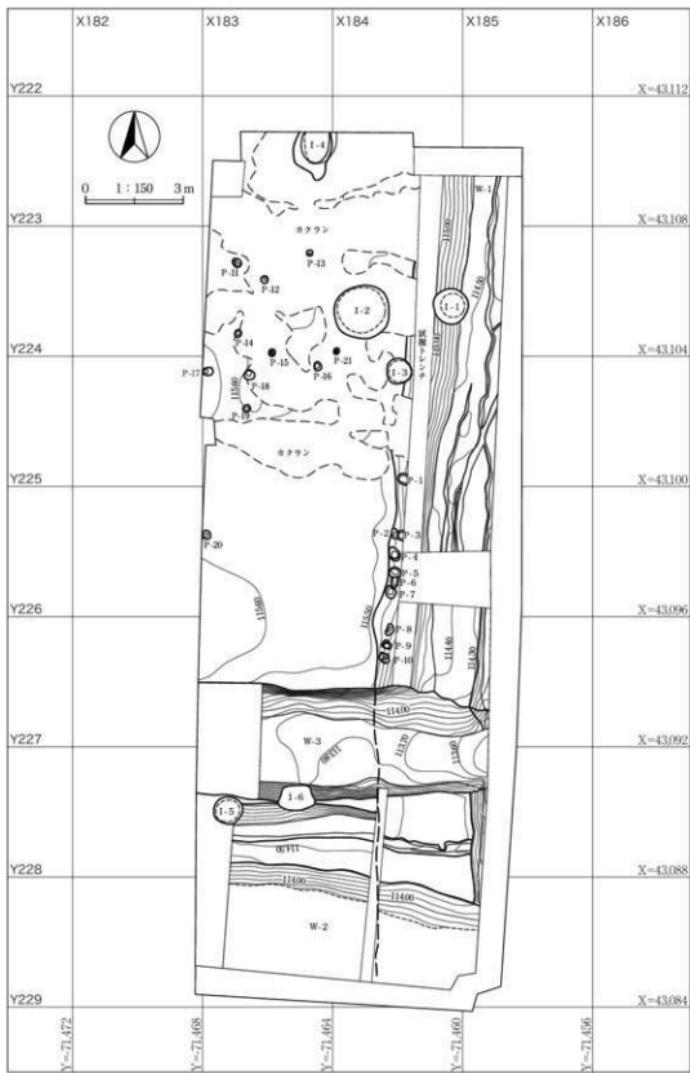


Fig. 6 元總社古海遺跡群（135）全体図

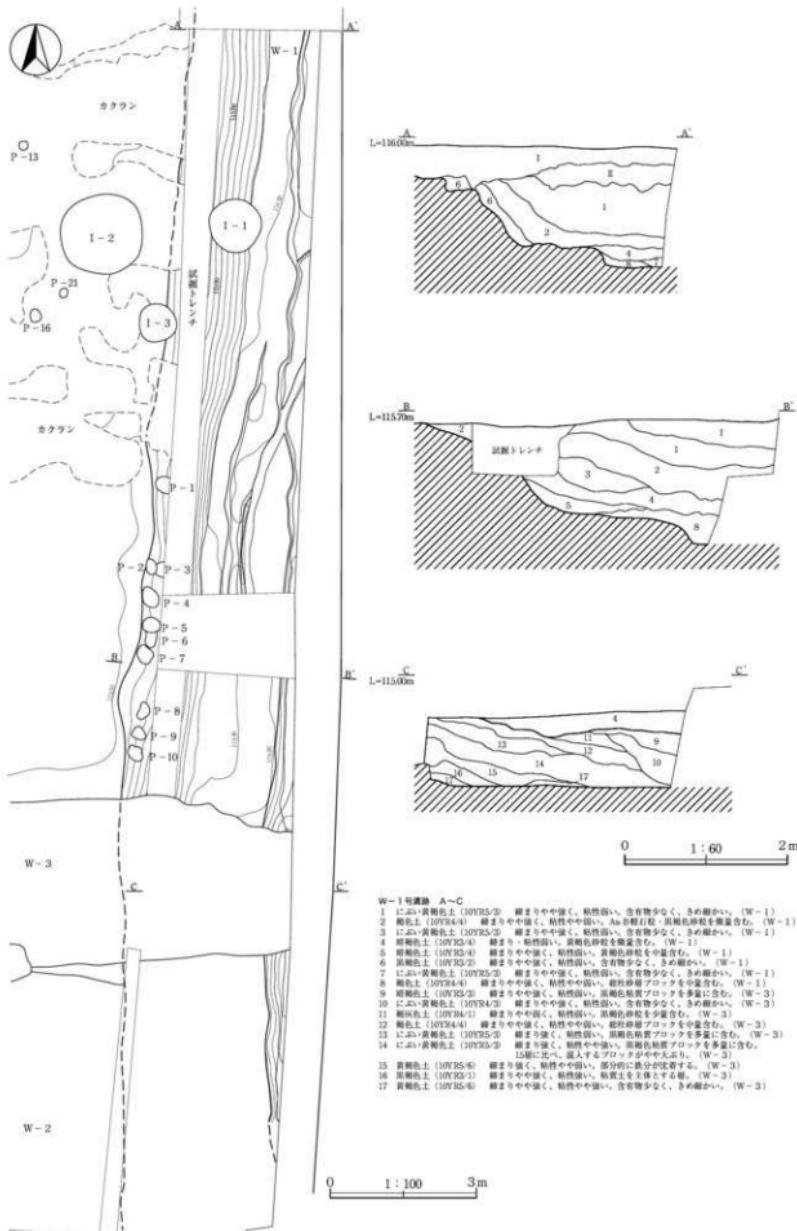


Fig. 7 W-1号溝跡

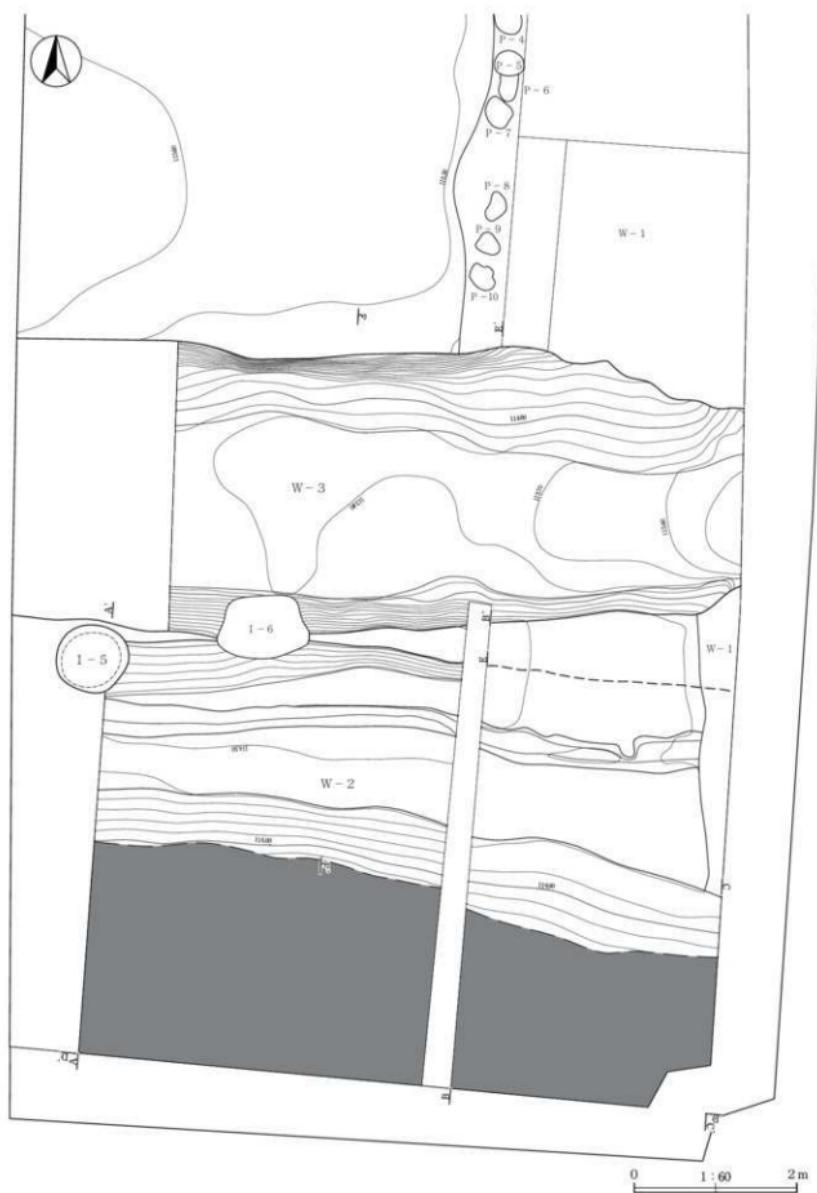
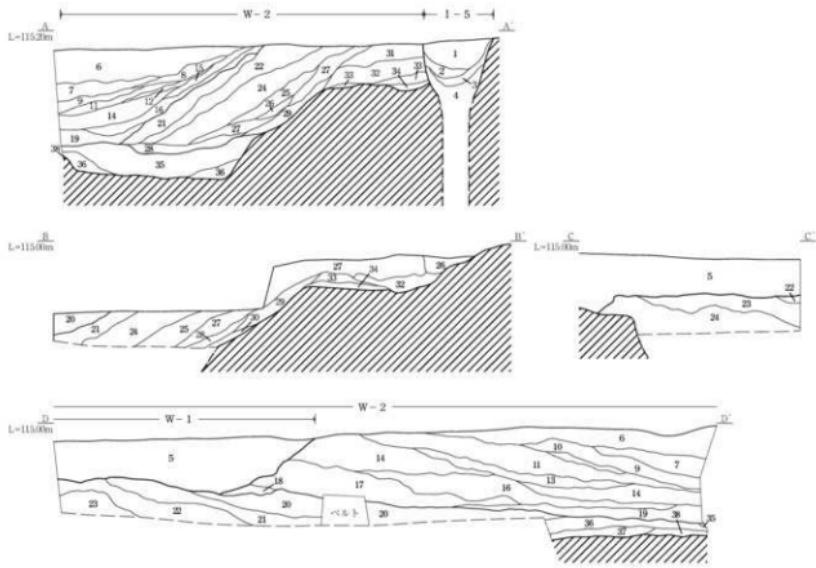


Fig. 9 W-2 · 3号溝路, I-5号井戸跡 (1)



W-2号沸腾、I-5号沸腾 A~D

- 1 黄褐色毛 (00YB4-1) 繁さりやや中空、粒状毛。黃褐色毛はプロトキサ葉質毛。(W-2)

2 黄褐色毛 (00YB4-2) 繁さりやや中空、粒状毛。黃褐色毛はプロトキサ葉質毛。(W-2)

3 黄褐色毛 (00YB4-3) 繁さりやや中空、粒状毛。黃褐色毛はプロトキサ葉質毛。(W-2)

4 黑褐色毛 (00YD1) 繁さり、粒状。黃褐色毛を含む。(I-5)

5 黑褐色毛 (00YD2) 繁さり、粒状。黃褐色毛を含む。(I-5)

6 黑褐色毛 (00YD3) 繁さり、粒状。黃褐色毛を含む。(W-1)

7 黑褐色毛 (00YD4) 繁さりやや中空、粒状毛。黒褐色毛はプロトキサ葉質毛を含む。(W-2)

8 黄褐色毛 (00YB2) 繁さりやや中空、粒状毛。黄褐色毛を含む。(W-2)

9 黄褐色毛 (00YB3) 繁さりやや中空、粒状毛。黄褐色毛を含む。(W-2)

10 黄褐色毛 (00YB4) 繁さりやや中空、粒状毛。黄褐色毛を含む。(W-2)

11 黄褐色毛 (00YB5) 繁さりやや中空、粒状毛。黄褐色毛を含む。(W-2)

12 黄褐色毛 (00YB6) 繁さりやや中空、粒状毛。黄褐色毛を含む。(W-2)

13 黄褐色毛 (00YB7) 繁さりやや中空、粒状毛。黄褐色毛を含む。(W-2)

14 黄褐色毛 (00YB8) 繁さりやや中空、粒状毛。黄褐色毛を含む。(W-2)

15 黄褐色毛 (00YB9) 繁さりやや中空、粒状毛。黄褐色毛を含む。(W-2)

16 黄褐色毛 (00YB10) 繁さりやや中空、粒状毛。黄褐色毛を含む。(W-2)

17 黄褐色毛 (00YB11) 繁さりやや中空、粒状毛。黄褐色毛を含む。(W-2)

18 黄褐色毛 (00YB12) 繁さりやや中空、粒状毛。黄褐色毛を含む。(W-2)

19 黄褐色毛 (00YB13) 繁さりやや中空、粒状毛。黄褐色毛を含む。(W-2)

20 黄褐色毛 (00YB14) 繁さりやや中空、粒状毛。黄褐色毛を含む。(W-2)

21 にじ 黄褐色毛 (00YB5-4) 繁さりやや中空、粒状毛や個々、黄色毛葉上部と葉身下部。(W-2)

22 黄褐色毛 (00YB5-5) 繁さりやや中空、粒状毛や個々、黄色毛葉上部と葉身下部。(W-2)

23 黄褐色毛 (00YB5-6) 繁さりやや中空、粒状毛や個々、黄色毛葉上部と葉身下部。(W-2)

24 黄褐色毛 (00YB5-7) 繁さりやや中空、粒状毛や個々、黄色毛葉上部と葉身下部。(W-2)

25 黄褐色毛 (00YB5-8) 繁さりやや中空、粒状毛や個々、黄色毛葉上部と葉身下部。(W-2)

26 黄褐色毛 (00YB5-9) 繁さりやや中空、粒状毛や個々、黄色毛葉上部と葉身下部。(W-2)

27 黄褐色毛 (00YB5-10) 繁さりやや中空、粒状毛や個々、黄色毛葉上部と葉身下部。(W-2)

28 黄褐色毛 (00YB5-11) 繁さりやや中空、粒状毛や個々、黄色毛葉上部と葉身下部。(W-2)

29 黄褐色毛 (00YB5-12) 繁さりやや中空、粒状毛や個々、黄色毛葉上部と葉身下部。(W-2)

30 黄褐色毛 (00YB5-13) 繁さりやや中空、粒状毛や個々、黄色毛葉上部と葉身下部。(W-2)

31 黄褐色毛 (00YB5-14) 繁さりやや中空、粒状毛や個々、黄色毛葉上部と葉身下部。(W-2)

32 黄褐色毛 (00YB5-15) 繁さりやや中空、粒状毛や個々、黄色毛葉上部と葉身下部。(W-2)

33 黄褐色毛 (00YB5-16) 繁さりやや中空、粒状毛や個々、黄色毛葉上部と葉身下部。(W-2)

34 黄褐色毛 (00YB5-17) 繁さりやや中空、粒状毛や個々、黄色毛葉上部と葉身下部。(W-2)

35 黄褐色毛 (00YB5-18) 繁さりやや中空、粒状毛や個々、黄色毛葉上部と葉身下部。(W-2)

36 黄褐色毛 (00YB5-19) 繁さりやや中空、粒状毛や個々、黄色毛葉上部と葉身下部。(W-2)

37 黄褐色毛 (00YB5-20) 繁さりやや中空、粒状毛や個々、黄色毛葉上部と葉身下部。(W-2)

38 黄褐色毛 (00YB5-21) 繁さりやや中空、粒状毛や個々、黄色毛葉上部と葉身下部。(W-2)

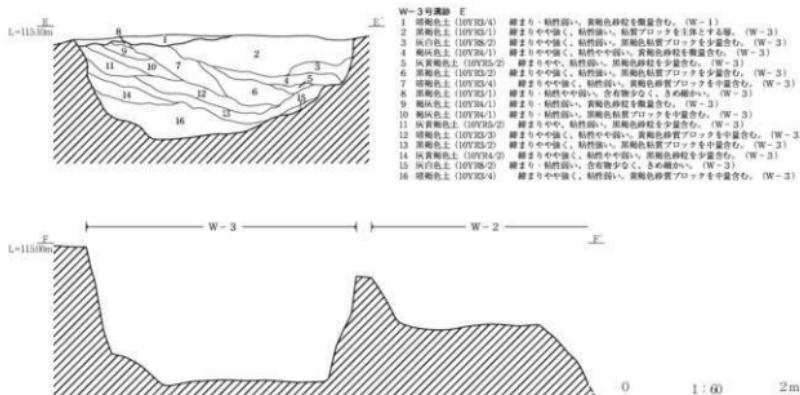
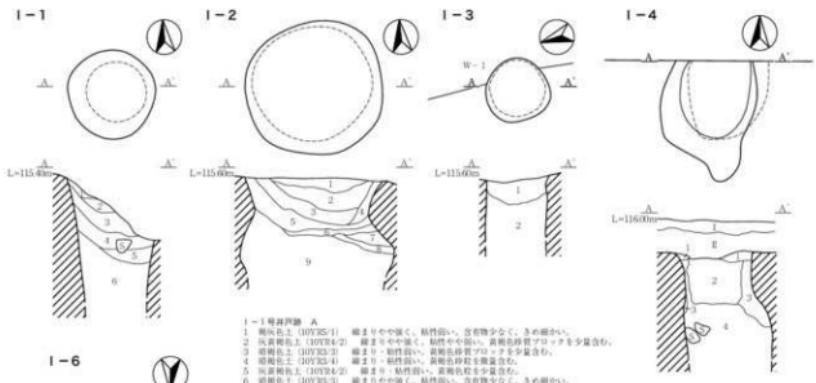


Fig. 9. W=2:3号溝跡, 1-5号共百跡(2)



1 : 60 2m

- P=1~21号ビット

 - 1 暗褐色土 (10YR3/4)
細よりやや強く、粘性弱い。
含有量少なし。含め難かい。
 - 2 黄褐色土 (10YR4/2)
細よりやや強く、粘性やや弱い。
黄褐色色調を呈藻類含む。
 - 3 暗褐色土 (10YR3/3)
細より、粘性弱い。
含有量少なし。含め難かい。

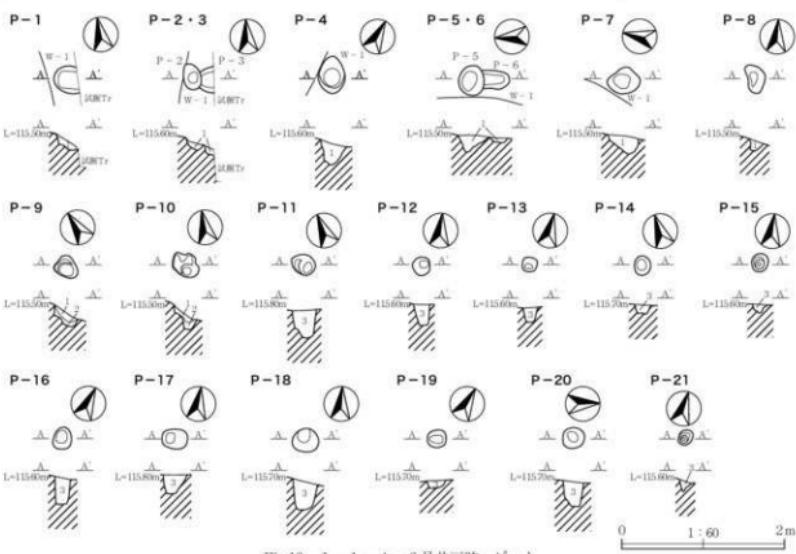
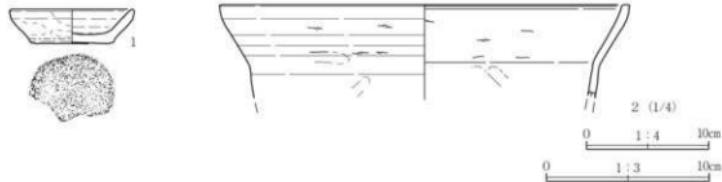
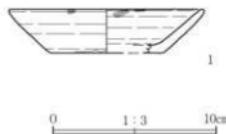


Fig.10 1-1-4・6号井戸跡、ビット

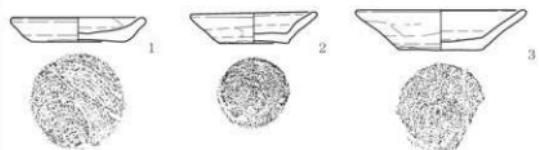
W-1



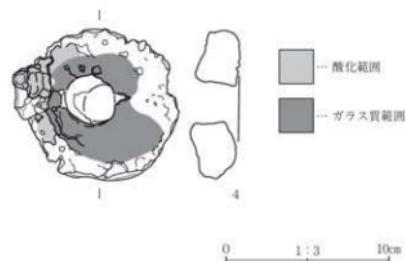
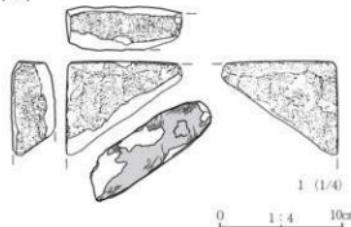
W-2



W-3



I-1



I-2

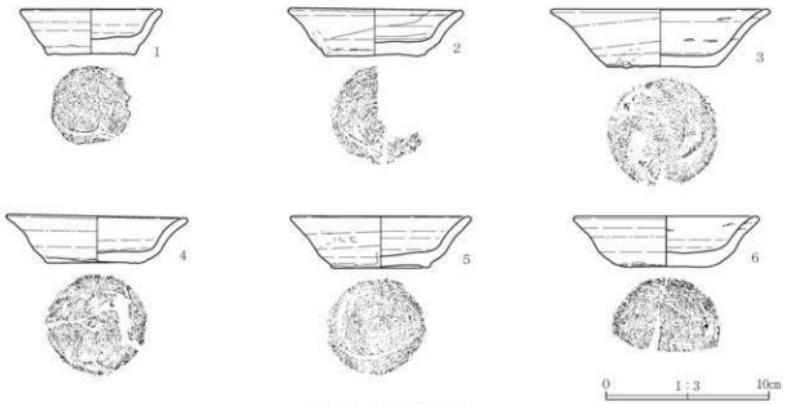
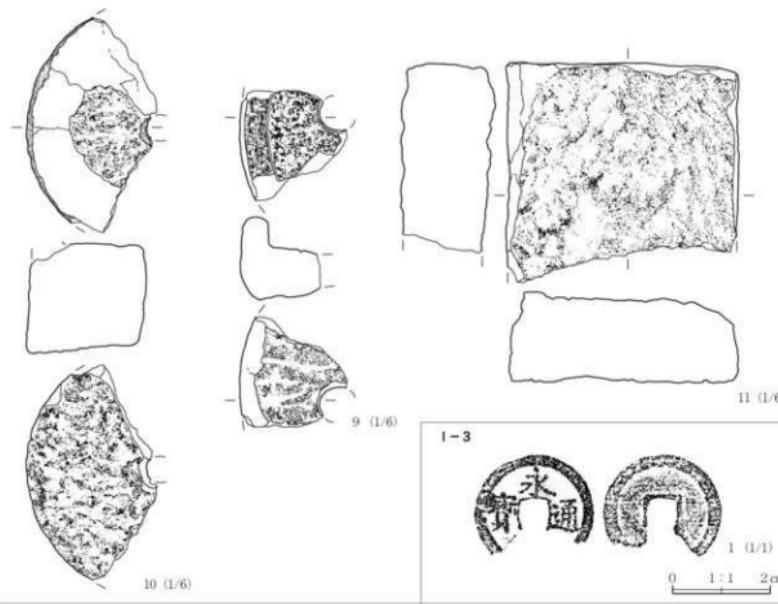


Fig.11 出土遺物 (1)

1 - 2



1 - 4

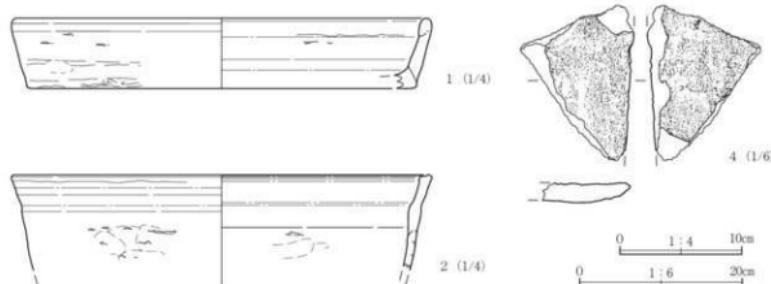


Fig.12 出土遺物 (2)

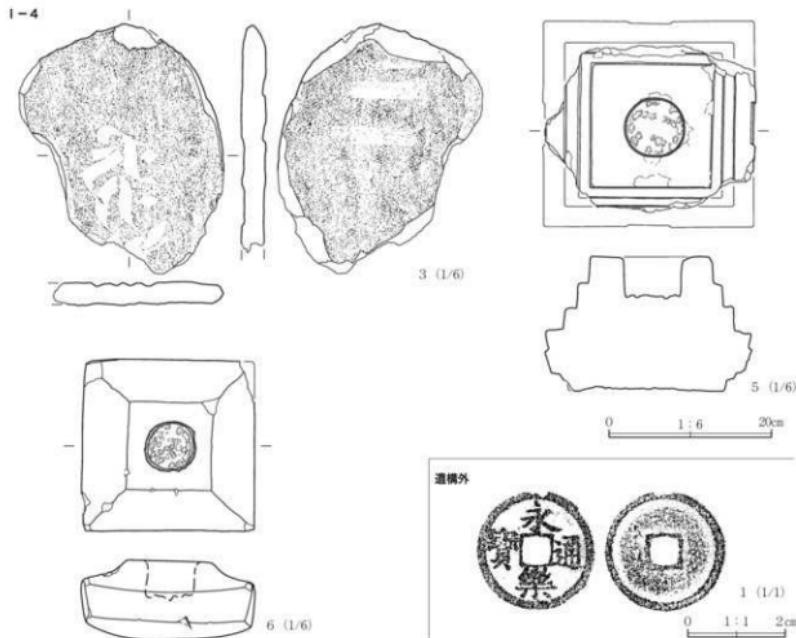


Fig.13 出土遺物（3）

Tab. 3 出土遺物観察表

W - 1

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	裏面、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	覆土	かわらけ	(7.6)	(5.2)	(2.1)	白色粘、石英	良好	灰	外側口縁部ヨコナギ、以下ロコロナガ成形、底面回転未切り。 内側口縁部ヨコナギ、以下ロコロナガ成形。	1/4残存。
2	覆土	土鍋	(35.5)	—	(7.6)	赤色粘、石英	良好	黒	外側口縁部ヨコナギ、以下ロコロナガ成形。 内側ヨコナギ、ナガ成形。	1/3残存。

W - 2

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	裏面、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	覆土	かわらけ	36.0	(35.5)	(2.7)	白色粘	良好	灰	外側口縁部ヨコナギ、以下ロコロナガ成形、底面回転未切り。 内側口縁部ヨコナギ、以下ロコロナガ成形。	1/3残存。

W - 3

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	裏面、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	覆土	かわらけ	8.4	6.0	1.5	白色粘、石英	良好	明黄	外側口縁部ヨコナギ、以下ロコロナガ成形、底面回転未切り。 内側口縁部ヨコナギ、以下ロコロナガ成形。	1/2残存。
2	覆土	かわらけ	8.0	4.4	1.9	白色粘、石英	良好	黄	外側口縁部ヨコナギ、以下ロコロナガ成形、底面回転未切り。 内側口縁部ヨコナギ、以下ロコロナガ成形。	ほぼ完存。
3	覆土	かわらけ	(30.5)	(32)	25	白色粘	良好	灰	外側口縁部ヨコナギ、以下ロコロナガ成形、底面回転未切り。 内側口縁部ヨコナギ、以下ロコロナガ成形。	1/2残存。
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	裏面、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
4	覆土	豆	30.1	4.4	2.6	砂粒、小石	焼成	褐、褐、灰	手揉み成形、凹痕を有する。 内側口縁部ヨコナギ、内側中央部にガラス化施薬が跡を。 内側口縁部ヨコナギ、内側中央部にガラス化施薬が跡を。	底面1/3残存。重量 2025g。

I - 1

No	出土位置	種別、器種	高さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	裏面、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	覆土	瓦、平瓦	7.6	—	—	白・黒色粘	焼成	灰	古敷形には「有名な瓦」で通称される。上・左側面にハコナギ (ハコナギ)と書かれており、右側面に「瓦」が彫されている。大腹瓦は無粘 (無粘)で、瓦踏みで作成された。	瓦2片、重さ 2655g。

I - 2

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	裏面、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	覆土	かわらけ	(8.5)	(4.0)	2.8	白色粘、石英	良好	浅黄	外側口縁部ヨコナギ、以下ロコロナガ成形、底面回転未切り。 内側口縁部ヨコナギ、以下ロコロナガ成形。	1/4残存。

No	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	釉土	焼成	色調	基形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
2	廻上	小わらけ	(10.8)	(6.0)	28	白・赤色粒	良好	に赤い痕 内面・外面部ヨコナギ、口下ヨコロコナガ成形。底部凹凸有り。	白地	外面部ヨコナギ、口下ヨコロコナガ成形。底部凹凸有り。	1/2残存。
3	廻上	小わらけ	(13.4)	(7.0)	36	石英、雲母	良好	白	外面部ヨコナギ、口下ヨコロコナガ成形。底部凹凸有り。	外面部ヨコナギ、口下ヨコロコナガ成形。	1/2残存。
4	廻上	小わらけ	(11.1)	(6.0)	30	白色粒、石英	良好	浅黄褐	外面部ヨコナギ、口下ヨコロコナガ成形。底部凹凸有り。	外面部ヨコナギ、口下ヨコロコナガ成形。	1/2残存。
5	廻上	小わらけ	(11.2)	6.0	32	白色粒	良好	浅黄褐	外面部ヨコナギ、口下ヨコロコナガ成形。底部凹凸有り。	外面部ヨコナギ、口下ヨコロコナガ成形。	はば定着。
6	廻上	小わらけ	(11.4)	(6.6)	32	白色粒	良好	に赤い痕	外面部ヨコナギ、口下ヨコロコナガ成形。底部凹凸有り。	外面部ヨコナギ、口下ヨコロコナガ成形。	1/2残存。
7	廻上	上端	(29.0)	—	317	白・黒色粒	良好	黒地	外面部ヨコナギ、口下ヨコロコナガ成形。 内面・外面部ヨコナギ、チリ成形。	外面部ヨコナギ、チリ成形。	1周～側面上段。

No	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	石質	焼成	色調	重量 (g)	基形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
8	廻上	石製品	石棒	13.4	13.7	11.2	玄武岩	—	—	3540	細かなくぼみ・突起を持つ白灰岩。内面には丁寧な削り。底部斜面有り。	はば定形。
9	廻上	石製品	鉤頭臼	(21.0)	—	10.3	玄武岩	—	—	14560	上端・側面・底面に鋸歯状。	1/6残存。
10	廻上	石製品	鉤頭臼	(22.0)	—	12.6	玄武岩	—	—	49920	下端・下部側面・底面に鋸歯状。	1/3残存。

No	出土位置	種別	器種	大きさ	幅	高さ	石質	焼成	色調	重量 (g)	基形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
II	廻上	石製品	石圓筒・石圓台	(27.1)	28.6	31.6	西開石安山岩	—	—	10960	表面無し。左右及び上部は平面加工が施され、表面は滑らかに磨かれている。表面中央付近に擦による変色あり。	右側面。下部半欠損。

I - 3

No	出土位置	種別	器種	初確認年代	材質	外径	穿径	厚さ	重量	基形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	廻上	水築通貫	水築分界 (1411年)	—	—	—	—	—	—	—	1/4残存。

I - 4

No	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	釉土	焼成	色調	重量 (g)	基形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	廻上	埴造	(34.1)	(32.0)	15.8	白色粒、雲母	良好	黒地	外面部ヨコナギ、口下ヨコロコナガ成形。	—	外面部ヨコナギ、口下ヨコロコナガ成形。	1周残存。
2	廻上	上端	(34.5)	—	17.0	白色粒、石英	良好	に赤い痕	外面部ヨコナギ、口下ヨコロコナガ成形。	—	外面部ヨコナギ、チリ成形。	1周残存。
No	出土位置	種別	器種	大きさ	幅	高さ	石質	焼成	色調	重量 (g)	基形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
3	廻上	石製品	石棒	(40.0)	(24.1)	30	硅酸岩質	—	—	3000	表・上身様子キリーカ (阿波守松家)、逆光有り。 表・横・上端。	上半部残。
4	廻上	石製品	板鏡	(39.1)	(13.8)	25	硅酸岩質	—	—	7600	表・上身様子 (阿波守松家)、 表・横・上端。	鏡刃。
5	廻上	石製品	宝鏡守形	(26.6)	26.0	16.7	角開石安山岩	—	—	84750	周囲の模様を欠する。	笠2/3残存。
6	廻上	石製品	五輪鏡	21.1	21.2	9.9	玄武岩	—	—	40700	側穴に加工痕跡。	火輪部。一部欠損。

遺構外

No	出土位置	種別	器種	初確認年代	材質	外径	穿径	厚さ	重量 (g)	基形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	廻上	水築通貫	水築分界 (1411年)	—	—	—	—	—	—	—	1/12定形。

VI まとめ

今回の発掘調査では溝跡3条、井戸跡6基、ピット21基を検出した。このうち3条の溝跡については規模、形状や検出位置から蒼海城の堀跡であり、周辺での発掘調査でも確認されている遺構である。以下、この蒼海城の堀跡について既往の発掘調査を交え、本調査での成果を概観する。

蒼海城は永享元年(1429年)に築城された城郭である。築城した總社長尾氏が在城時のものと考えられる「蒼海城絵図」や山崎一の作成した繩張図(1978)等から照らし合わせると、本調査区は蒼海城本丸の南西、二の丸西部にあたり「松井屋敷」とされる郭に該当する(Fig.14)。

本調査区のW-1号溝跡は調査区中央から東端にかけて検出しており南北方向に走行、本丸・二の丸と松井屋敷の間を走る堀にあたる。底部の中心と東側の立ち上がりは調査区外のため確認に至っていないため断面形状は不明であるが、検出範囲では台形状を呈し調査区東端では一段低くなり、さらに東へ向かって下がるものと考えられる。この遺構は、本調査区の北側に位置する元總社蒼海遺跡群(23)・25・26地点1トレンチ、元總社蒼海遺跡群(36)5区のW-2号溝跡、元總社蒼海遺跡群(124)のW-3号溝で確認されている遺構と同

一になる。また、南側では元総社蒼海遺跡群（47）W-2号溝跡、元総社蒼海遺跡群（105）W-1号溝跡も南北方向を指向しており、位置関係から同一の遺構といえる。

また、調査区南側で検出した東西方向のW-2・3号溝跡は松井屋敷南側を巡る堀である。W-2号溝跡は調査区南端にありW-1号溝跡と直交する。南壁の断面観察から、本遺構が先行することが分かっている。また、西壁の断面観察から、3時期に大別することができる。新段階のA期は含有物の少ない暗褐色砂質土で埋没しており、検出範囲での断面形状は台形を呈する。中段階は断面形状台形ないし箱形となり、総社砂層ブロックを主体として埋没し、堆積状況から堀の北側から埋め戻されたものと推察される。なお北側にテラス状の段を設けており、立ち上がり際に小規模な溝状の掘り込みが確認できる。本調査で確認できる範囲では最大の幅を持つ段階となる。古段階のC期はグライ化した粘土層の堆積が見られ、湛水の痕跡であると考えられる。この埋没・掘り返しの様子は元総社蒼海遺跡群（124）のW-3号溝でも確認されている（前橋市教育委員会2017）。ここではA～D期の4時期に細分されており⁽¹⁾、報告書の記述内容からは特にB～D期の埋没過程で類似点があり、松井屋敷を囲う堀の共通した変遷過程を示していると思われる。

このW-2号溝跡の北側を東西に走行するのがW-3号溝跡であり、土壙を切り崩して埋め戻されたと思われ、多量の総社砂層ブロックと黒褐色粘質ブロックを含む土層が堆積しており、非常に縦りが強い。W-1号溝跡と直交し、本遺構が先行する。

3条の堀間での前後関係について、調査の限りではW-1号溝跡が最も後出するものであるが、堀の中心部や最下面を確認できていない。また、同一遺構と思われる元総社蒼海遺跡群（47）W-1号溝跡は近世のA期、蒼海城段階のB期に大別されており、本調査区でのW-1号溝跡はこのA期に当たる可能性も考えられ、蒼海城段階では前後関係が逆転することも想定される。W-2・3号溝跡の前後関係については本調査区内での交点がないため不明とせざるを得ないが、両遺構間は最大で42cm、最小で10cm程度と堀の間隔としては極めて狭く、位置関係から併存していた可能性は低いと判断される。調査時の所感として、また両遺構の断面観察から推察するにW-2号溝跡D期が最古段階で、これが埋められたあとW-3号溝跡、その後にW-2号溝跡A・B期への変遷が追えるように思われるが、いずれにしても推察の域を出す今後の調査成果を持ちたい。

なお、本調査区北側にある御靈神社近辺に流れを発する「おくらかわ、おくらっぽり」と呼ばれる小川があり⁽²⁾、今回検出したW-2・3号溝跡は位置関係から、この小川の一部にあたるもので、蒼海城の地割として利用されたものと考えられる。

註

- (1) 報告書では4時期（大きくは2時期、新段階：A～C期、古段階：D期）を設定している。本調査区ではB～D期に共通するものと思われる。なお、A期を16世紀以降、B期を15世紀後半以降、C期を15世紀半ば以降、D期を永享元年（1429年）に想社長尾景行が築城した時期と推定されている。
- (2) 中村（2018）によると、この「おくら川」は台地の地下を、埋没谷に沿って伏流した水が御靈神社近辺で湧水し小川ができ、南方は現在の五千石堰用水に合流して染谷川に注ぐものとされている。本調査区南にも現在のコンクリートによる用水が走っており、今でもその流れを確認することができる。



Fig.14 元総社蒼海遺跡群（135）周辺蒼海城想定図

写 真 図 版



調査区遠景（南から、右上が蒼海城本丸）



調査区全景（上が北）



調査区全景（南から）



W-1号溝跡全景（南から）



W-1号溝跡近景（北から）



W-2・3号溝跡全景（東から）



W-2号溝跡全景（東から）



W-3号溝跡全景（東から）



I-1号井戸跡全景（東から）



I-2号井戸跡全景（北から）



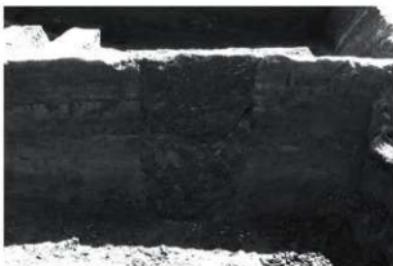
I-3号井戸跡全景（南から）



I-4号井戸跡全景（南から）



I - 5号井戸跡全景（東から）



I - 6号井戸跡全景（北から）



P - 1～10号ビット全景（南から）



P - 1号ビット全景（南から）



P - 2・3号ビット全景（南から）



P-4号ピット全景（南から）



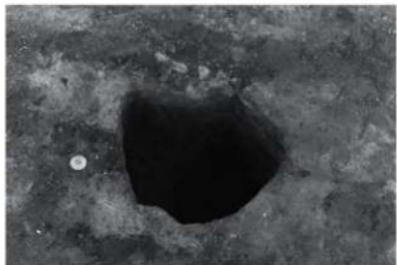
P-5・6・7号ピット全景（東から）



P-8・9号ピット全景（南から）



P-10号ピット全景（東から）



P-11号ピット全景（南から）



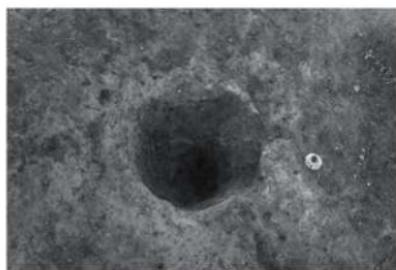
P-12号ピット全景（南から）



P-13号ピット全景（南から）



P-14号ピット全景（南から）



P-15号ピット全景（南から）



P-16号ピット全景（南から）



P-17号ピット全景（南から）



P-18号ピット全景（南から）



P-19号ピット全景（南から）



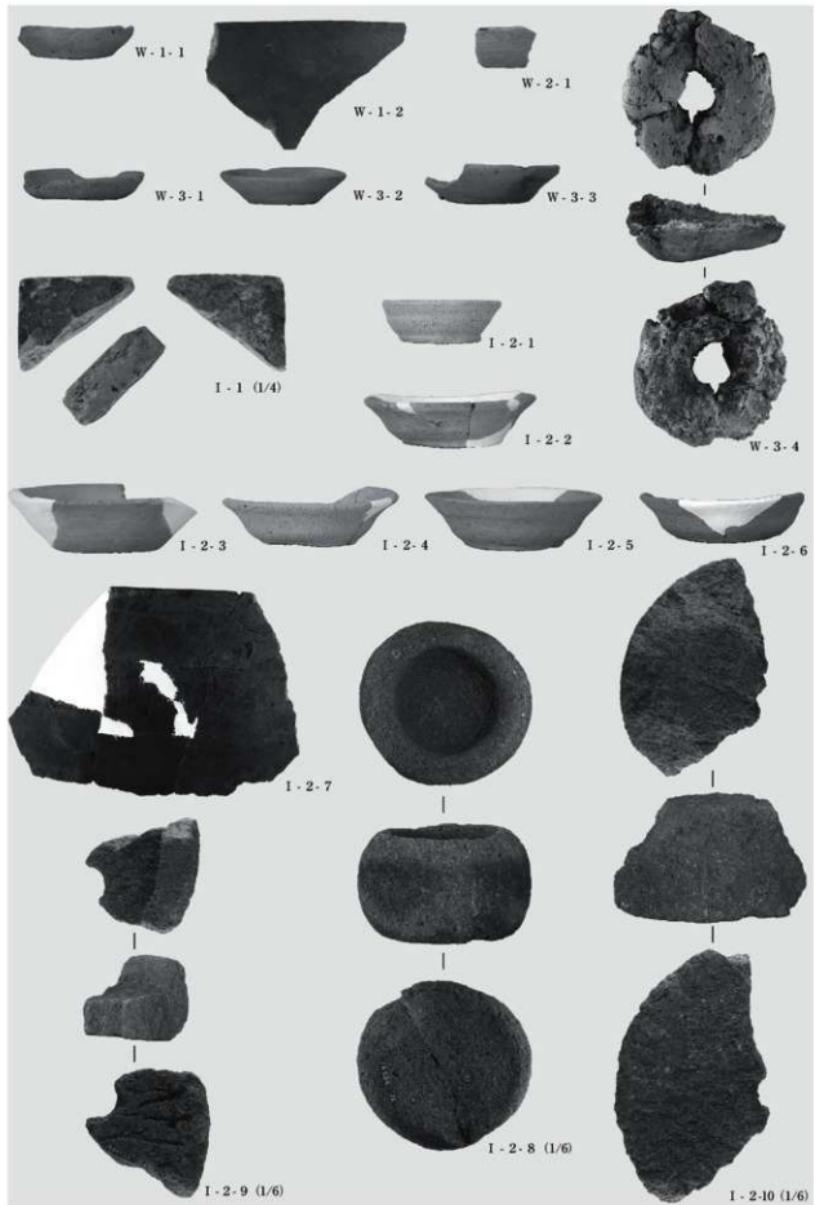
P-20号ピット全景（南から）

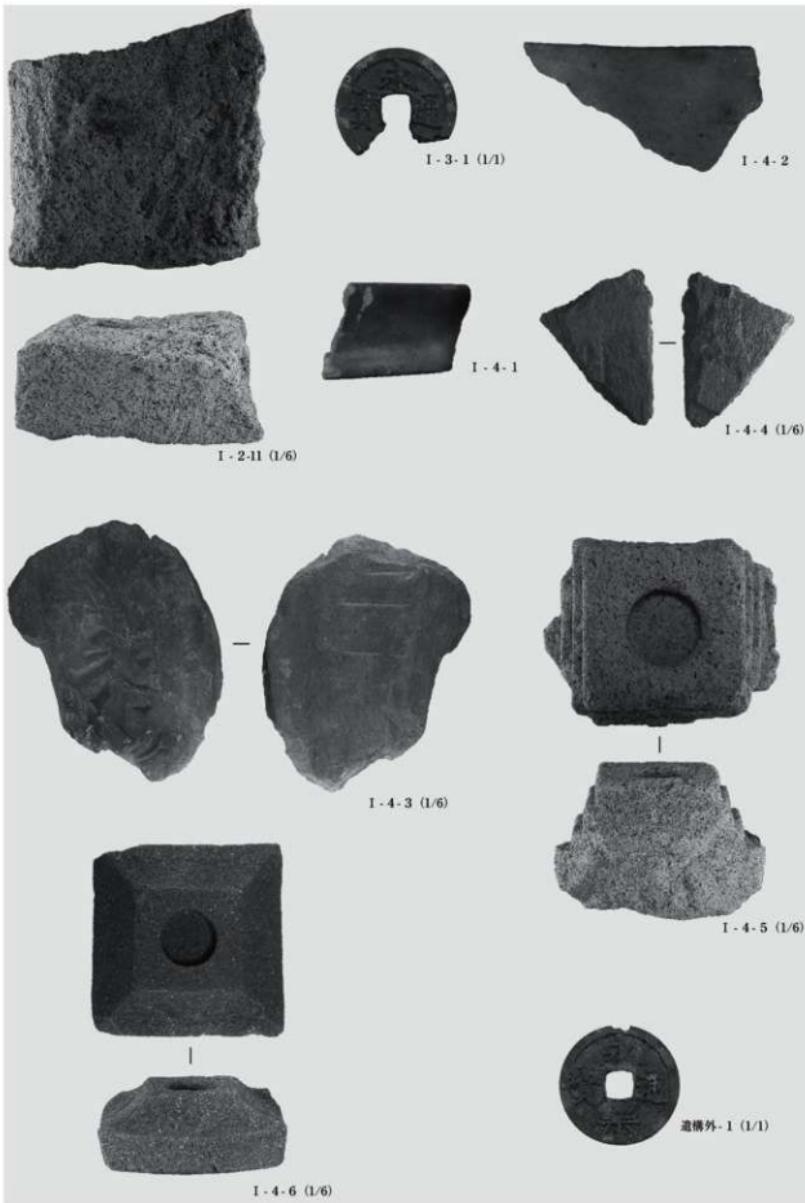


P-21号ピット全景（南から）



基本層序（南から）





報告書抄録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン (135)
書名	元総社蒼海遺跡群 (135)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	-
シリーズ名	-
シリーズ番号	-
編著者名	山田誠司
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371-0031 群馬県前橋市下小出町1丁目15番地3
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4
発行年月日	2020年3月10日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (135)	マチシヤシヨウシヨウカヨウ 前橋市元総社町 2149-1, 2149-2, 2149-5, 2149-7	102021	I A244	36°23'20"	139°2'00"	20190905 ~ 20190924	304m ²	前橋都市計画事業 元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 (135)	城館跡	中・近世	溝跡 井戸跡 ピット	3条 6基 21基 かわらけ 陶磁器 石製品 古銭	・蒼海城に関連する城

元総社蒼海遺跡群 (135)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2020年3月1日 印刷
2020年3月10日 発行

発行 前橋市教育委員会文化財保護課
〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4
TEL 027-280-6511

編集
技研コンサル株式会社
印刷
朝日印刷工業株式会社

